



基本は物理的に 本来の性能を引き出す

ガソリンエンジンを搭載した自動車が登場して約140年。クルマの性能を高めるために、多くの技術が発達してきた。確かにクルマの性能は大幅に向上したが、大きく変わらないうちもある。たとえば、クルマは多くの部品を組み合わせた製品で、エンジンが動き、タイヤがまわって走るということは、いろいろな部分に抵抗やストレスが発生しているのだ。

これらの抵抗やストレスは、気づかないだけでクルマの性能を大きくスポイルしている可能性があるのだ。たとえば、転がり抵抗の小さいタイヤを装着すれば燃費が良くなる。エンジン

信じる者は
カーライフを
楽しめる!?

特集 ふしぎ用品最前線

部品を交換したり、グレードアップさせることでクルマの性能を向上させるチューニングパーツ。クルマにいろいろ手を加えることで性能アップが楽しめる。これに対して、ただ単に置いたり貼り付けたりするだけで、クルマのフィーリングガラッと変わるというアイテムもある。いわゆる“ふしぎ用品”だ。いったい、どうして変化が体感できるのか？ 最新のアイテムをチェックしてみた。



オイル添加剤によるエンジン内部抵抗低減も、同様に燃費やフィーリング向上が体感できる。

エンジンオイル添加剤は70年以上前からその効果が認められ、いろいろな種類があるのはご存じのとおり。じつをいうと、取り付けるだけで違いが体感できる“ふしぎ用品”も、基本的な考えは同じ。目に見えないクルマの抵抗やストレスを物理的に低減させることで、本来発揮できるクルマの性能を引き出そうというものだ。

1978年。物質が本来持つ性能を引き出す技術として誕生したSEVは、もともと健康機器からスタート。『物質活性化方法および装置』という発明名称で、日本や海外でも特許を取得している本格的な技術であ

り、じつは“ふしぎ”ではなく物理的に裏付けられた技術がある。この技術を応用して1992年に開発されたのが自動車用SEV製品。すでに30年の歴史を持っているのだ。

ふしぎ用品に対してよくいわれるのが、性能が上がるならカーメーカーが採用しないわけがない、という点。カーメーカーは性能が良くなるとしても、コストを考慮して採用しないこともある。エンジンオイル添加剤も、カーメーカーが採用するようになったのは最近のことだ。

しかし、カーメーカーもいろいろなトライをしており、研究も進めている。たとえばトヨタが静電気除去テープの特許を取得。クルマの走行性能が変わることを発表し、製品化もしている。また、タイヤメーカー各社が静電気を逃がす技術をタイヤに搭載。実用化している。静電気除去はふしぎ用品の注目ポイントといえそうだ。

さてさて、最新のふしぎ用品。どんな体験ができるのか早速チェック！

